令和７年９月 11 日
養正・昭和地区説明会資料

養正幼稚園・昭和幼稚園・双葉保育園の統合について

１　これまでの経緯

令和７年５月　７日　多治見市議会（全員協議会）にて説明
２１日　養正幼稚園保護者説明会
２２日　双葉保育園保護者説明会
２６日　昭和幼稚園保護者説明会
３０日　養正幼稚園保護者との意見交換会
６月３０日　養正地域説明会
７月　１日　昭和地域説明会
９日　養正幼稚園保護者との意見交換会
８月１９日　多治見市議会（全議員集会）にて説明

２　これまでにいただいた主なご意見と考え方

（ご意見）養正幼稚園の入園時に説明がなかったので困惑している。年少の子を養正幼稚園で卒園させてほしい。

→これまで検討を重ねてきた。方針決定したのが昨年度末だったため、入園前の説明は叶わなかった。年少の子を養正で卒園させたいという強い思いはしっかり受け止め、検討させていただく。

（ご意見）なぜ養正ではなく昭和へ統合するのか

→子どもの立場から見れば、それぞれの園の良さがある。また、遊具等の環境についての差はない。駐車場等の利便性や校区ごとの出生数などを考慮して決めた。

（ご意見）新たな統合園の候補地の見込みはあるのか。最終的な移転先を含めて検討するべきではないか

→候補地については皆さんの意見を聞いて今後検討していく。

（ご意見）養正地域から伝統ある幼稚園を無くさないでほしい

→養正幼稚園は歴史ある園であり、お気持ちはよくわかる。しかし、最優先は子どものことである。少しでも大きな集団生活の中で社会性を身につけやすい環境を最優先に考えたい。

（ご意見）双葉保育園との統合まで、このまま２園を維持してもよいのではないか。少人数であれば異年齢保育を行うなどの保育の仕方を現場の先生と共に工夫することで、社会性を養うことは補えるのではないか。

→同年齢の集団のなかで、普段から生活や活動を共に積み重ねていく中で関係性を深め、社会性を育んでいくことが教育保育現場では必要だと考えている（幼稚園教育要領に明記）。その環境を整えることを最優先に考えたい。

３　今後の進め方について

ア　養正幼稚園、昭和幼稚園の統合について
令和 10 年度から現在の昭和幼稚園へ統合します。【当初案（令和９年度）から変更】

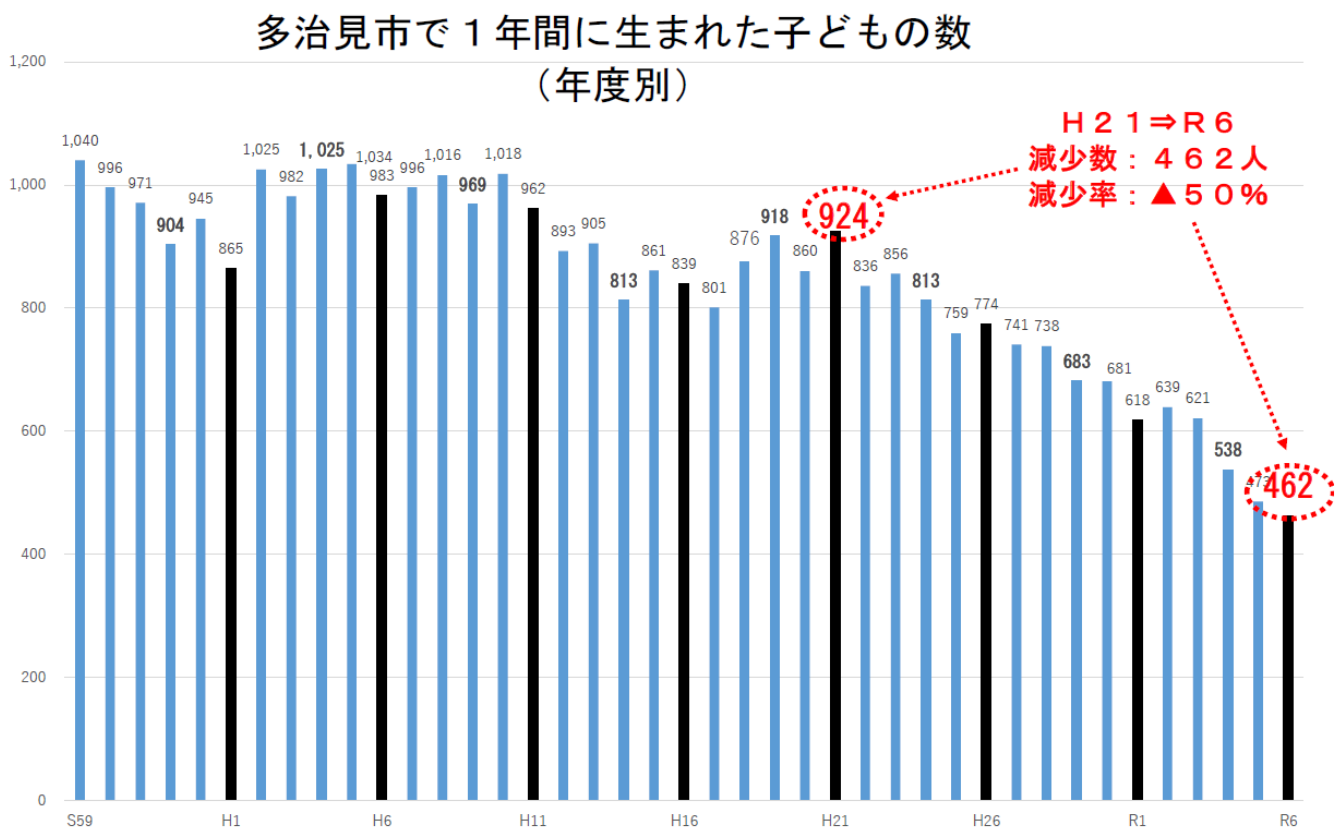
イ　養正幼稚園、昭和幼稚園、双葉保育園３園の統合について
令和 15 年度の統合に向けて検討を進めます。
開園予定地については、現状、養正地区及び昭和地区で新たな園用地を確保できる見込みは少ないため、養正、昭和、双葉の３園の現在地を新たなこども園の候補地として、今後皆さんのご意見をお伺いしながら検討を進めます。
もし、今後新たな用地が確保できる見込みが出てきた場合は、その用地を含めて検討します。

４　次回の地域説明会の予定について

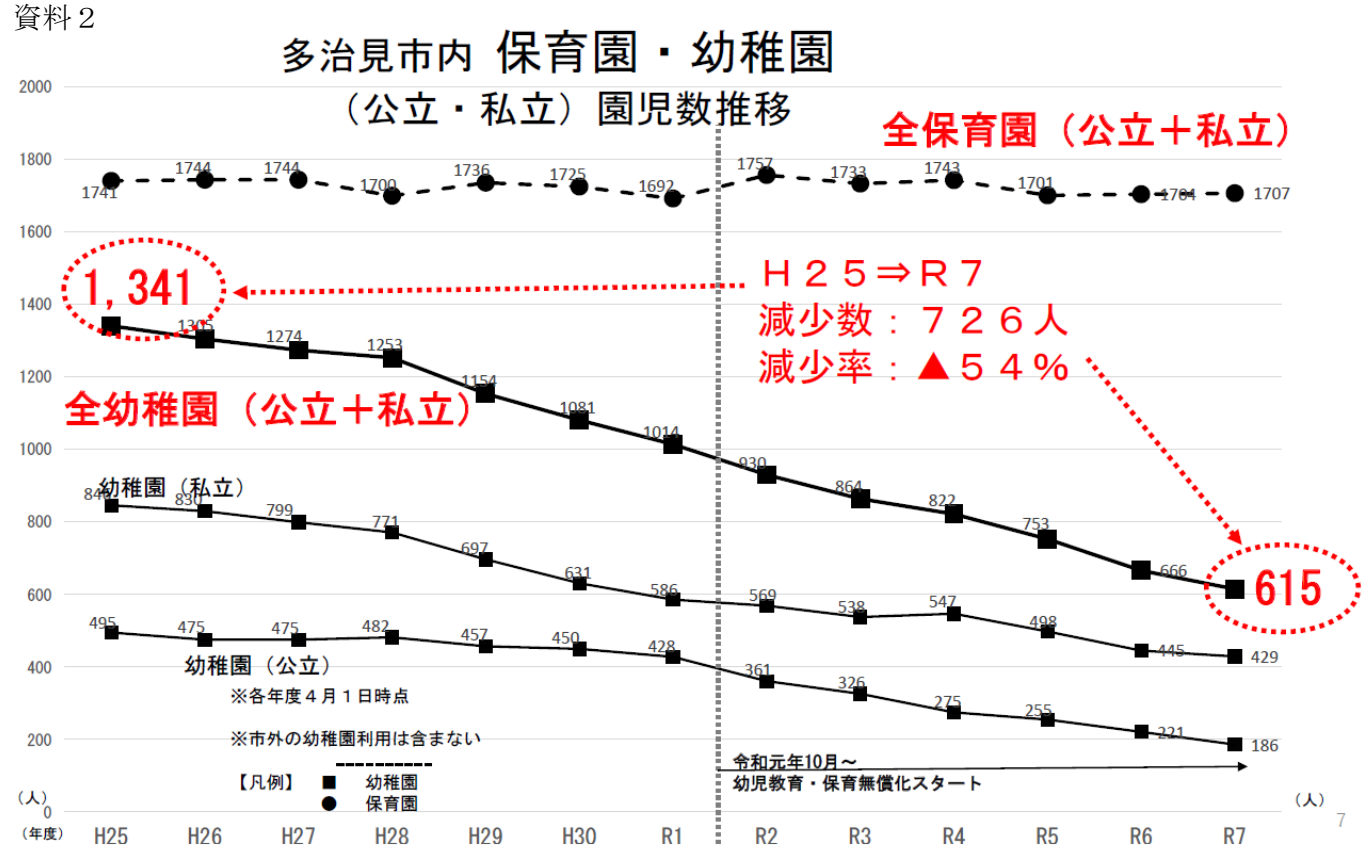
日時：１１月２０日（木）午後７時から
場所：産業文化センター３階大会議室

令和７年９月 11 日
養正・昭和地区説明会資料

資料１



資料２



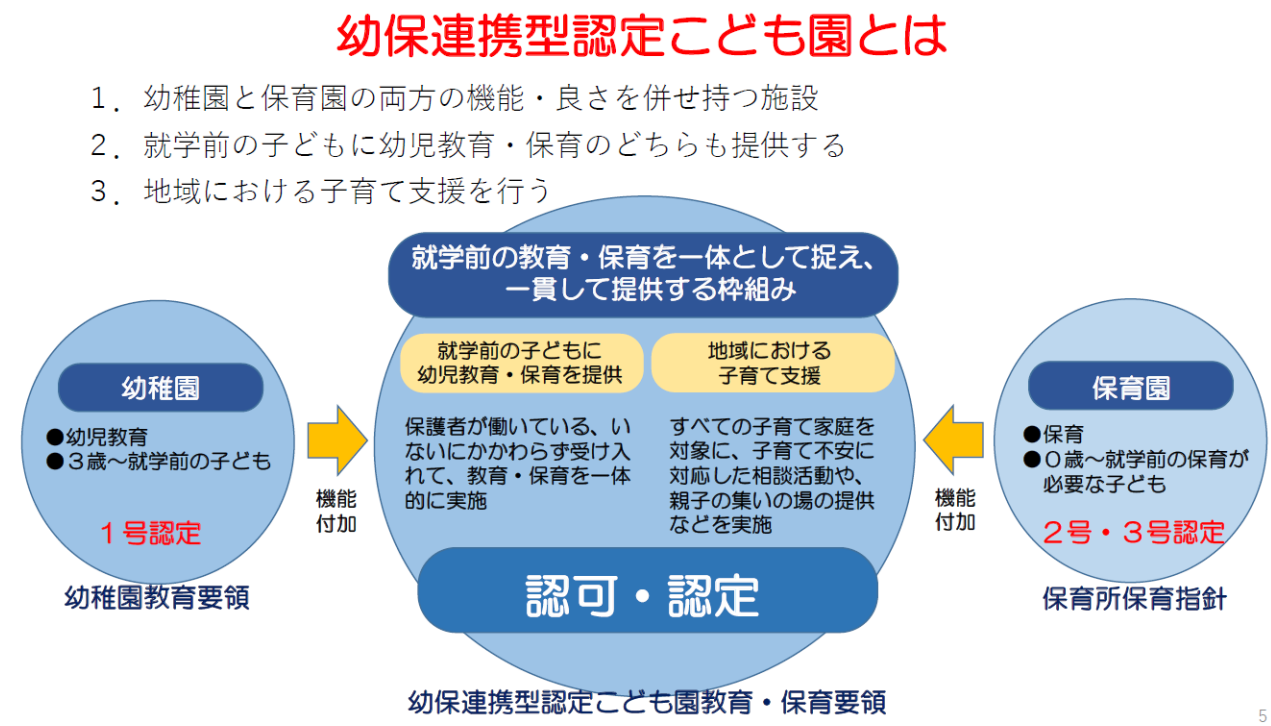
資料３

公立幼稚園の園児数推移	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
養正幼稚園	63	58	51	48	50	40	34	23	
昭和幼稚園	59	59	53	56	48	43	32	28	
明和幼稚園	138	112	81	51	34	29	19	16	R8「旭ケ丘こども園」へ
笠原幼稚園	81	77	62	53	44	46	43	37	R8「笠原こども園」へ
精華愛児幼稚園	119	122	114	118	99	97	93	82	
公立幼稚園　計	**450**	**428**	**361**	**326**	**275**	**255**	**221**	**186**	

資料４

	利用定員	R7.4 園児数	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳
双葉保育園	150	116	27		29	35	25
昭和幼・養正幼	90・90	51			19	12	20
統合こども園	160		30		30	50	50

資料５



集団がもたらす幼児の成長について

幼稚園教育要領解説（平成３０年２月）より抜粋

序章　第２節　幼児期の特性と幼稚園教育の役割

１　幼児期の特性

（1）幼児期の生活

１．生活の場（一部抜粋）

幼稚園においては，教師や他の幼児たちと生活を共にしながら感動を共有し，イメージを伝え合うなど互いに影響を及ぼし合い，興味や関心の幅を広げ，言葉を獲得し，表現する喜びを味わう。また，大勢の友達と活動を展開する充実感や満足感をもつことによって，さらに自分の生活を広げていこうとする意欲が育てられていくことになる。しかし，このような集団での生活の中では，親しい人間関係の下で営まれる家庭生活とは異なり，自分一人でやり遂げなければならないことや解決しなければならないことに出会ったり，その場におけるきまりを守ったり，他の人の思いを大切にしなければならないなど，今までのように自分の意志が通せるとは限らない状況になったりもする。このような場面で大人の手を借りながら，他の幼児と話し合ったりなどして，その幼児なりに解決し，危機を乗り越える経験を重ねることにより，次第に幼児の自立的な生活態度が培われていく。

２．他者との関係（一部抜粋）

初めは，同年代の幼児がいると，別々の活動をしながらも同じ場所で過ごすことで満足する様子が見られるが，やがて一緒に遊んだりして，次第に，言葉を交わしたり，物のやり取りをしたりするなどのかかわりをもつようになっていく。そして，ときには自己主張のぶつかり合いや友達と折り合いを付ける体験を重ねながら友達関係が生まれ，深まっていく。やがて，幼稚園などの集団生活の場で共通の興味や関心をもって生活を展開する楽しさを味わうことができるようになると，さらに友達関係は広がりを見せるようになっていく。このような対人関係の広がりの中で幼児は互いに見たり，聞いたりしたことなどを言葉や他の様々な方法で伝え合うことによって，今まで自分のイメージにない世界に出会うことになる。

幼児はこのようにして，一人で活動するよりも，何人かの友達と一緒に活動することで，生活がより豊かに楽しく展開できることを体験し，友達がいることの楽しさと大切さに気付いていくことになる。

それと同時に，幼児は，友達とのかかわりを通して様々な感情を体験していくことになる。友達と一緒に活動する楽しさや喜び，また，自己主張のぶつかり合いなどによる怒り，悲しさ，寂しさなどを味わう体験を積み重ねることによって，次第に，相手も自分も互いに違う主張や感情をもった存在でもあることに気付き，その相手も一緒に楽しく遊んだり生活したりできるよう，自分の気持ちを調整していく。

３．興味や関心（一部抜粋）

一人では興味や関心をもたなかった対象に対しても他の幼児に接することによって，あるいは，教師の援助などによって，自分もそれに興味や関心をもつようになる。このような興味や関心は，その対象と十分にかかわり合い，好奇心や探究心を満足させながら，自分でよく見たり，取り扱ったりすることにより，さらに高まり，思考力の基礎を培っていくので，幼児が様々な対象と十分にかかわり合えるようにすることが大切である。

幼児は，同年代の幼児の行動に影響されて行動を起こしたり，保護者や教師などの親しみをもっている大人の行動を模倣し，同じようなことをやってみようとしたりすることが多い。したがって，自然や出来事などの様々な対象へ幼児の興味や関心を広げるためには，他の幼児の存在や教師の言動が重要な意味をもつことになる。